

PICC外来

食事がとれない方、抗がん剤など薬液が漏れることなく確実に点滴を行いたい方、点滴を刺す血管がない方、長期間点滴が必要な方に対して、今までは中心静脈カテーテル(細い点滴の管)というものを挿入しておりましたが、活動が制限されたり、長期挿入にて感染を起こしたりするなどの合併症により長期間使用するのは困難でありました。

当院では末梢より穿刺して中心静脈カテーテルと同じ役割を果たすPICCを挿入することで、今までの中心静脈カテーテルの問題点を解決し、長期間にわたる点滴管理を可能にしております。

今回、PICC外来を開始し、その対象を院外の患者様や他の病院、施設に入所中の方や在宅で治療中の方で長期に点滴加療が必要な患者様に提供できるような体制をとることといたしました。

PICCとは

PICCとは、peripherally inserted central catheter(末梢挿入型中心静脈カテーテル)の略であり、主に上腕にある少し大きな静脈より心臓に近い太い静脈にカテーテルを挿入することで、従来の中心静脈カテーテルと同様の点滴加療が可能です。

上腕に点滴を留置しますので、腕も自由に曲げられますし、感染リスクも少なく長期間の留置、使用が可能です。カテーテルが閉塞しない限りは入れ替える必要がありませんので、何回も針を刺されることもありません。カテーテルを挿入する場所も腕ですので、大きな合併症もなく非常に安全にカテーテル挿入が可能です。



PICC挿入の対象者

良い適応となる方

- ①数日の連続した点滴が必要な方
- ②点滴の針を刺す血管がない方
- ③抗がん剤などの長期間点滴での加療が必要な方
- ④食事がとれず点滴での栄養管理が必要な方、胃ろうを希望されない方

適応とならない方

- ①腕が伸ばせない方(PICC挿入ができない方)
- ②認知機能障害がある方(挿入時安静が困難な方、挿入しても自分で抜去される方)
- ③全身状態が著しく悪い方
- ④静脈が閉塞している方

ペースメーカーなど人工物が血管内に入っている方は反対側への挿入は可能です。
シャントがある患者さまも反対側への挿入となります。

留置方法

カテーテル室で施行します。仰臥位になっていただき、挿入する腕は伸ばしていただきます。超音波を使用して血管を確認し、カテーテルを挿入する血管を決定します。針を刺す部位を消毒し清潔なシートで覆い、細菌が入らないようにします。カテーテルを挿入し先端の位置をX線で確認して問題なければ挿入部を固定して終了です。

留置時間は通常、検査室入室時より約30分程度で終了しますが、血管穿刺やカテーテル挿入が困難な場合には少し時間がかかることがあります。

挿入後の管理

適切に管理することで長期間使用可能です。

カテーテル不使用時は、1日1回のヘパリンロックをお願いします。

テープの張替えと消毒に関しては、基本的には週1回でOKです。

入浴時は、穿刺部が汚染されないようにラップやビニール袋で処置をして入浴が可能です。

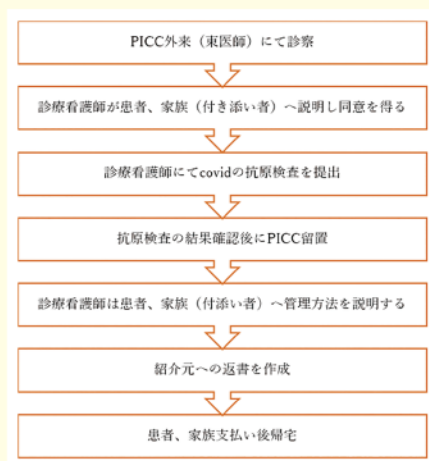
挿入終了後に当院診療看護師より管理方法や今後について説明があります。

注意点

- ①**感染** 中心静脈カテーテルよりはるかに少ないですが、少なからず発生します。十分な管理が必要です。挿入部をむやみに触らないようにしてください。
- ②**カテーテル閉塞** カテーテル自体が細くなっていますので、血液の逆流や薬剤により閉塞する可能性があります。十分な管理で予防することは可能です。
- ③**カテーテルの抜去** テープで固定しますので、引っ張られることでカテーテルは抜去してしまいます。衣類の着脱やテープ交換時などは特に注意が必要です。
- ④**血栓、静脈炎** 人工物を血管内に挿入しますので、まれに血の塊（血栓）ができることで静脈炎を起こすことがあります。

その他、動脈穿刺や複数回のカテーテル挿入で血管閉塞が起こることがあります。

PICC 外来の流れ



PICC外来について

主治医の許可が取れていることが必要です。事前に紹介状を当院の方までFaxもしくは郵送でお願いいたします。内容を確認後、外来当日のPICC挿入を調整いたします。

ご不明な点がございましたら、当院診療看護師までご連絡ください。

（文責：循環器内科部長 東 健作）

部門紹介

栄養管理室

栄養管理室では、入院中はもちろん入院前から退院後まで一連の栄養管理を担っており、主に食事提供業務、栄養指導業務、臨床栄養業務を行なっています。スタッフは、管理栄養士、栄養士、調理師で委託スタッフ含み30数名が在籍しております。



▲ 栄養管理室スタッフ

● 食事提供業務

医師からの食事オーダーを元に、管理栄養士が指示栄養量を網羅した献立を作成します。その献立に沿って食材料の発注・検収・食品管理を行い、調理師により、下処理・調理し、盛り付けられた食事を患者さまへ提供しています。

一番心がけていることは衛生管理で、食中毒など起こさないよう、日々、手指衛生や食事の温度管理など徹底しております。また、アレルギーを含む誤配膳や異物混入などないよう、スタッフ一丸となって取り組んでいます。

● 栄養指導業務

患者さまの生活背景を考慮し、個々に合わせた栄養指導を行なっています。栄養指導を実施する上で、食生活に関する情報を収集しますので、プライベートな面に配慮し、患者さまが話しやすい話し方・雰囲気心がけています。その情報を元に、患者さまに合わせた提案を行っておりますので、無理のない範囲で取り入れいただき、生活習慣病などの改善に繋げることができたらと思います。

● 臨床栄養業務

管理栄養士は、入院時に看護師とともに栄養スクリーニングを行い、栄養管理計画書を作成します。特に低栄養や高リスクの方に、必要な栄養量が提供されているか評価し、不足していれば、その原因を探り、形態調整や量など状況に応じた食事調整を行なっています。常にモニタリングを行い、必要に応じて、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士等多職種で構成されている栄養サポートチーム（NST）で栄養改善を図っています。

また、嚥下回診や緩和ケアラウンド、各科カンファレンスなどのチーム活動へ積極的に参画し、栄養改善の提案等を行い、治療に貢献できるよう努めています。



▲ NSTカンファレンス

(文責：栄養管理室長 崎向 幸江)

新任
紹介



外科 レジデント

古川 恵瑞

8月より外科レジデントとして勤務させて頂くこととなりました。前年度も鹿児島医療センターで勤務させて頂き、外科の先生方には大変お世話になりました。他科の先生方、スタッフの皆様、また今年度も宜しくお願い致します。



■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター (心臓病・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <https://kagomc.hosp.go.jp/>

【地域連携】 箇田・西田・中本・篠崎・迫田・椎原・出口・石原・吉留・馬場・櫻木・田辺・池野・宮崎

【がん相談】 松崎・新川・水元・原田・菊永・杉本

地域連携室専用 FAX▶099(223)1177

※休日・時間外は当直者で対応します。

